

No.52

2008年2月

aaca



第17回 AACCA賞 佐川美術館 樂吉左衛門館

---

## CONTENTS

第19回 日本建築美術工芸協会 設立記念総会	2
第17回AACCA賞・第6回芦原義信賞	
受賞作品発表、審査講評、	3
各賞受賞作品 及び 選考委員講評	4～9
aaca 会員の活動	10～11
トピックス	12

---

社 団 法 人  
日 本 建 築 美 術 工 芸 協 会

## 中島会長 ご挨拶

本日の設立記念総会にあたり一言ご挨拶申し上げます。

社団法人日本建築美術工芸協会の設立は1988年11月であり、本年は19回を迎えることとなりました。その19年の歩みは、それぞれの分野を越えた会員の多くの方々の努力と密接な連携により設立の目的に就いてまいりました。昨年6月公益法人改革関係3法が交付され、現在所管の文化庁のご指導をいただき、新法人への移行を目指しております。

本日は文化庁文化部芸術文化課 野口調査官様 伊藤係長様のご列席を頂き、ご祝辞を戴くことになっております。今後益々のご指導を御願ひする所でございます。

さて、本年度のAACA賞、戸原義信賞につきましては本年は44件のご応募を頂きました。いづれも賞の主旨を十分に理解された素晴らしい作品であります。会員の皆様の情熱に感激しております。

最後になりましたが、来年は設立20周年を迎えます。会員の皆様のご協力を頂き、先輩の方々の業績にこたえ、ぜひ記念事業を成功させたいと思っております。

簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。



## 文化庁 ご挨拶 文化庁文化部芸術文化課 野口調査官様

社団法人日本建築美術工芸協会 第19回設立記念会および協会賞表彰式の開催にあたり 文化庁より一言ご挨拶申し上げます。まずこのたび、栄えある各賞を受賞されました皆様方に心よりお祝い申し上げます。

皆様は、優れた芸術的創造的研究と景観形成に寄与された点が受賞につながったと伺っております。

このたびの受賞を契機にますますのご研鑽を期待しております。社団法人日本建築美術工芸協会は昭和63年の法人設立以来 今回の協会賞をはじめとして AACA環境シンポジウムや建築に関する芸術的環境の創造・保存の質的向上を図る講演会や研修会の開催を通じてわが国の建築美術の発展に大きく尽くされてこられました。

これもひとえに本日もご出席の皆様方のご尽力の賜物であり深く敬意を表する所でございます。

今日、私たちの身の周りでは多様な文化芸術活動が行われております。芸術は人々の日々の生活を豊かにするものであり、その振興は社会の創造のために重要であります。文化庁におきましても文化芸術振興を目指して様々な取り組みをおこなっておりますが、わが国の文化芸術をさらなる発展のためには日頃から芸術活動に携わる方々の意欲的な活動を欠かすことは出来ません。従いまして本日もご列席の皆様のごさらなるご尽力をご期待するものであります。

最後に「日本建築」美術工芸協会のさらなる発展と、会員の皆様のご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。



## 受賞作品発表

### A A C A 賞

- 佐川美術館 樂吉左衛門館  
応募者 樂吉左衛門+株式会社 竹中工務店

### AACA賞 優秀賞

- 日本盲導犬総合センター  
応募者 千葉 学

### AACA賞 特別賞

- 三井本館の保存・活用と  
日本橋三井タワーの開発  
応募者 三井不動産株式会社  
代表取締役社長 岩沙弘道  
株式会社 日本設計  
代表取締役社長 六鹿正治

### AACA賞 奨励賞

- TORANOMON TOWERS  
応募者 KAJIMA DESIGN/北 典夫
- セルリアンタワー東急ホテル  
庭園「閑坐庭」  
応募者 梶野俊明

### 芦原義信賞

- 横河電機株式会社 金沢事業所  
応募者 大成建設株式会社一級建築士事務所  
設計本部 関 政晴

### 芦原義信賞 奨励賞

- AGCモノづくり研修センター  
応募者 株式会社 竹中工務店  
設計部 山口広嗣+宮下信顕
- アルテミス宇都宮クリニック  
応募者 株式会社 竹中工務店  
設計部 高木利彰、和田安史
- 東京松屋UNITY  
応募者 河野有悟/河野有悟建築計画室

#### 選考委員会

選考委員長	澄川 喜一
選考委員	岡本 賢
〃	加藤 貞雄
〃	村井 修
〃	小倉 善明
〃	上山 良子
〃	近田 玲子
ゲスト選考委員	宮崎 浩
〃	藤江 和子

#### 審査総評

審査委員長 澄川 喜一

2007年度、第17回AACCA賞 第6回芦原義信賞は、応募作品が各々 29作品、15作品、合計44作品、その内 両賞にダブル応募されたのが4作品であった。応募点数は年々増加して、その内容も大変レベルの高い作品が揃って、この賞の評価が高まってきている事が感じられた。第1次審査で現地審査対象作品としてAACCA賞は9作品、芦原義信賞に4作品を選出した。その内1作品は両賞にダブル応募されたものである。計13作品について8作品を審査員全員が分担して現地審査し、他5作品は各審査員が適宜現地を訪れるという審査方法を実施した。

個人住宅から大都市再開発プロジェクトまで大変幅広く、しかも各々がきめ細かく、デザイン密度が高く、しかも技術レベルの高い作品が多く、審査は難行した。結果「建築美術工芸協会」という他の建築分野の賞とは異なる独自の評価軸を基本として、選考委員の意見が集約された。

AACA賞本賞には「佐川美術館 樂吉左衛門館」を、その作品と最終審査まで競った「日本盲導犬総合センター」を優秀賞に、特別賞に「三井本館の保存・活用と日本橋三井タワーの開発」、奨励賞に「セルリアンタワー東急ホテル 庭園「閑坐庭」と「TORANOMON TOWERS」の2作品に決定した。

本賞の作品は、樂吉左衛門氏の陶芸作品を中心に、その作品の世界を建築空間として呼応させた静謐で密度の高い空間構成が、建築と美術の統合を新しい形で実現させたものとして高く評価された。

優秀賞となった「日本盲導犬総合センター」は各々の機能を分節し、独立させながら連続させる手法の中で、富士山麓の豊かな環境と一体となった建築空間が審査員を魅了した。

芦原義信賞は本賞に「横河電機株式会社金沢事務所」、奨励賞に「AGCモノづくり研修センター」、「アルテミス宇都宮クリニック」、「東京松屋UNITY」の3作品が決定した。

本賞は水面に浮かぶガラス建築の美しさが建築とランドスケープが一体となった表現として高く評価された。

応募された多くの建築が芸術として高い価値に高められる様な作品創造に努力されている方々に敬意をげ、今後の活躍を期待したい。そして多数の応募された方々に感謝を申し上げ、今後とも協会の発展にご尽力をお願いしたい。

## ■ 佐川美術館 樂吉左衛門館

樂吉左衛門という、強烈な個性の芸術家が描くイメージを、竹中工務店の永年蓄積した技術のすべてを同社大阪本店設計部の内海慎介さんらが傾けて現実のものとした、世にも稀な芸術的環境・建造物という感が深い。

経費、研究、施工期間を十分にとり、既存の本館と連続しつつ、実は密度も雰囲気も全く異なる、非日常の異空間が作り出された。琵琶湖の岸辺を彷彿させる葦を適度に配した水庭の水面下に設けた二畳半台目の茶室に天井はなく、はるか上方の闇を通して差し込むかすかな光が、吟味した和紙で包んだ壁をたゆとう。

そこに至る水露地の滝の水音にも計算が行き届いている。また地上部分の和室広間の前面に敷きつめた黒い割肌石の、表面が波うつ広がりも現実ばなれの演出だ。展示各室も樂吉左衛門氏自身の創作に合わせたプランで、見るものを強引に誘い込む。ペースを伝統の佗茶に置くも、そこをはるかに突き抜けた前衛的な精神が横溢している。

これだけの冒険をいまのこの時代に、平然と受容れた施主にも脱帽だ。(選考委員 加藤貞雄 美術評論家)



茶室



茶室前室



展示室



ゆらく光

## ■ 日本盲導犬総合センター

富士山の緩やかに広がる裾野に、この盲導犬センターが建っている。犬の生活する犬舎、トレーニングルーム、研究所、犬と人間と一緒に寛げるラウンジ他多くの機能諸室が小さな街を形成するように点在している。

木床の中央プロムナードが富士山の方へと伸び、点在する諸室を紡ぐように蛇行する回廊で結ばれて、常に富士山を背景に屋内外の様々な活動が繰り広げられて緩やかなランドスケープを体感できる。犬に配慮し選択された素材は人間の身体感覚にも優しく呼応し、床材の使い分けが盲目の人の歩行感に作用し場所エリアを示すサインとなっている。ローコストだが気遣いの行届いた納まり、林立する極細の柱モジュールと屋根勾配の統一、諸設備の環境的将来的な対応とともに合理的で美しい。そして何より素晴らしいのは、犬にも人にも等しく優境的将来的な対応とともに合理的で美しい。そして何より素晴らしいのは、犬にも人にも等しく優しく心地良さに満ちている。ここには美術工芸の従来での表現はない。しかし、注意深く設けられた開口に本当の富士山が納まり望め、犬や人のいきいきとした活動の様があちらこちらにドキュメンタリー映画を見るようで楽しい。

ここにAACAA賞の新しい姿を見い出すことができる。

(選考委員 藤江 和子 建築家)



全 景



富士山を望む



訓練犬棟



学習資料室



ラウンジ棟

## ■ 三井本館の保存・活用と日本橋三井タワーの開発

1929年に建設された三井本館の建築は、周辺の三越百貨店や日銀本館の建築と共に永い間日本橋地区の象徴であり、端整な街並み造りのシンボリック的存在であり、重要文化財に指定されていた。超高層タワーの建設構想に当り、如何に保存・活用し、新しい現代建築と調和させるかが大きなテーマとなった。昨今様々な保存・活用手法が研究され、街並みのイメージの継承が図られているが、本計画では建築を完全に保存し、再活用しながら新たな超高層ビルの基壇部分と一体として構成するというデザイン手法を採用することによって、彫刻的な存在感を感じさせる歴史的建築と現代建築の見事な一体感を実現させた。最先端の現代技術を駆使して、建築の文化価値を永続させる見事な開発手法は、重要文化財特別型特定街区（現在は、重要文化財保存型特別街区と名称変更）という新しい都市計画の枠組を創り出した結果の作品として、特別賞に値するものである。  
 (選考委員 岡本 賢 建築家)



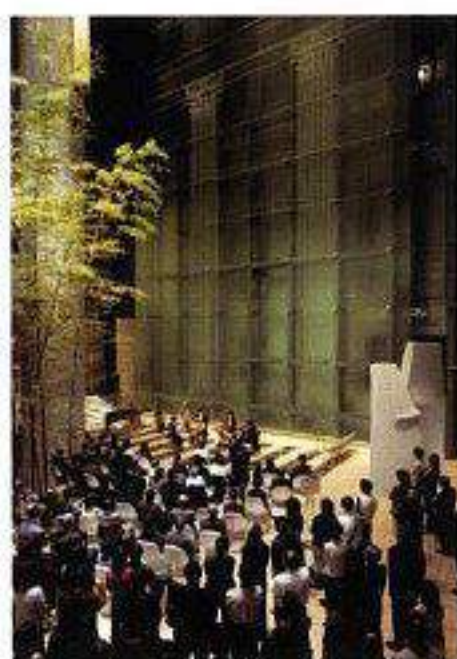
三井本館（完成時）

銀行店舗内部



エントランス

ヒストリカルウォール



ホテル

オフィス

美術館

店舗



## ■ TORANOMON TOWERS

TORANOMON TOWERSは、首都機能の拠点である永田町や霞ヶ関に隣接した六本木虎ノ門大街区整備地区のほぼ中央の丘に建つ、オフィスと住宅の複合高層建築開発プロジェクトである。今回のAACAA賞の審査ではこの簡潔で端正なフォルムを持つ建築に備わった 質の高い技術とデザインが評価されたのはもちろんであるがそれ以上にこの高層ビルの足元に広がるオープンスペースの環境作りに審査の話題が集中した。

特に、緩やかに地上と結ばれた一層低いレベルに計画された彫刻広場は秀逸であり、KAJIMA彫刻コンクールで大賞を受賞した小笠原伸行氏の作品と相まってミニマムで美しい環境を形成している。

そして、この彫刻広場と共に、古くから大切にされて既存林を残した「四季の森」を含めたランドデザインは今までの高層ビルの足元に、我々がかつて体験したことのない清閑な空間を見事に実現させた。このような都市

このような都市空間を生み出す源となった「KAJIMA彫刻コンクール」の取り組みにもあらためて敬意を表したいと思う。

(ゲスト選考委員 宮崎 浩 建築家)



## ■ セルリアンタワー東急ホテル 庭園「閑坐庭」

室内空間と庭園の融合を求めて庭につながるホテルのロビーインテリアまでを手がけた結果、日本の空間の特質である外と内と一体になったロビー空間をつくりあげた。石が岸にうち寄せる波のようにラウンジ内まで入り込む。庭園デザイナーとして石と樹木を自在に扱うたくいまれな空間感覚、石を知り尽くした職人ワザの見事さが光る。

この庭園には、都心における限定された空間であることを感じさせない空間のひろがりがある。

商業空間としてのホテル庭園の後ろには、公開空地と通り抜けの歩道がつくられているのだが、ホテル側から見ている人には、人の往来を全く感じさせない。通り抜け通路に対しても、林を歩いているかのような質の高いしつらえを保ったのは特筆すべき点である。

(選考委員 近田 玲子 照明デザイナー)



■ 横河電機株式会社 金沢事業所

横河電機株式会社 金沢事業所は、歴史的な町並みが残る金沢市郊外の金沢テクノパークの小高い丘に位置していて、遠く日本海を望む敷地に、水盤の上に浮かぶように建築がつけられている。最初に視界に入ってくるのは2階建ての産学協同研究棟で、これが全体の象徴的な役割を果たしている。この建築に平行して管理棟、研究開発棟、工場棟の3つの棟が機能的に、いずれも水に接して配置されている。手前に広がった水面は、奥にある3つの棟の間にプロムナード上につながり、建築群を視覚的にも適切に分節し、かつ相互の関係を保つ役割を果たしている。

水面に沿って垂直、水平が強調された構成の建築群は、水面と、カーテンウォール相互が生み出す関連性が緻密に検討されている。特に、太陽の動きや、天候の変化、夜間に対応して光を取り入れ、反射させる手法はたくみである。

省エネにも配慮されている端正なデザインのカーテンウォールと水面と相互に反射する光景で企業の持つイメージを伝えようとする設計者の意図は新鮮で見ると強く伝わる。芦原義信賞にふさわしい建築である。

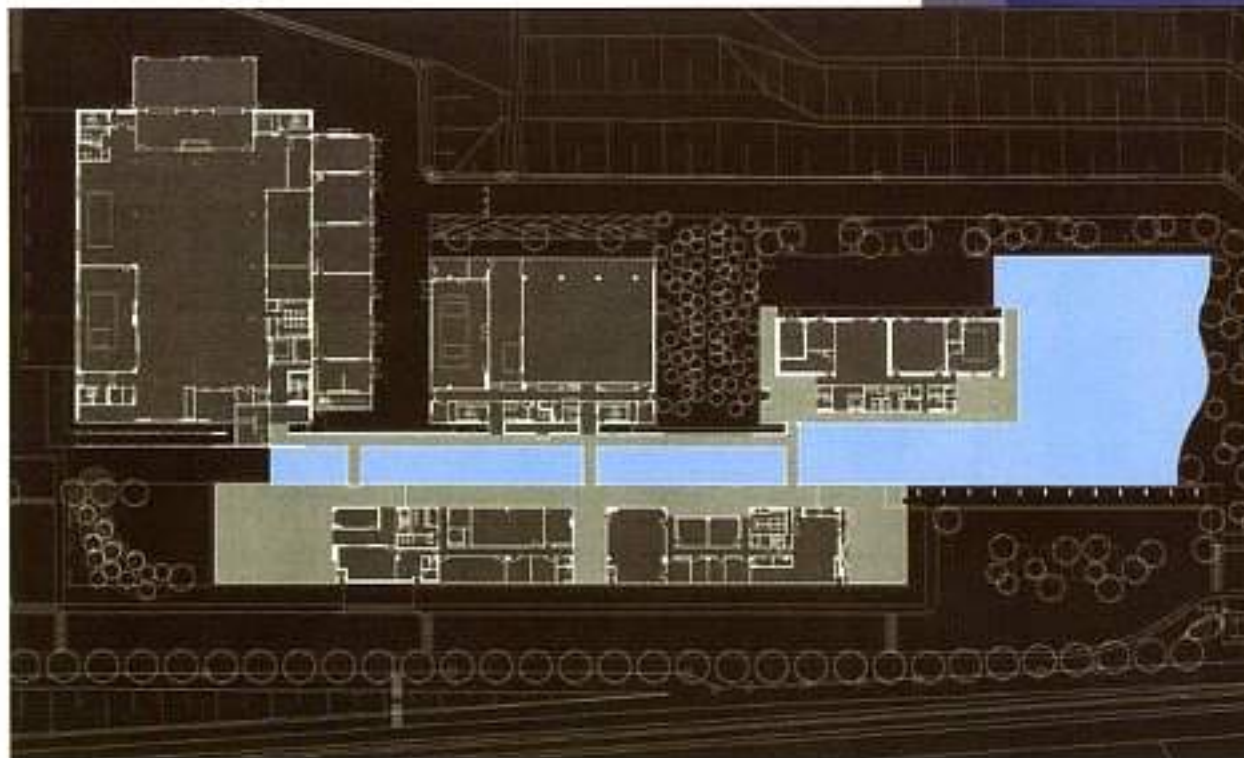
(選考委員 小倉 善明 建築家)



全 景



産学協同研究棟



配置図 工場棟・研究開発棟・産学協同研究棟（上部） 管理棟（手前）



食 堂



アプローチ



■ AGCモノづくり研修センター



「AGCモノづくり研修センター」は、高度な技術を蓄積した熟練工の高齢化と団塊世代の大量退職による技術伝承の危機という、日本全国いたるところのモノづくりの現場で起きている社会的問題に直面したメーカー（旭硝子）によって自社工場の一角に計画された研修施設である。ガラスメーカーのアイデンティティの象徴を「光のスペクトラム」として捉え、外部から内部まで一貫したデザインで思い切りよく展開しきっている点が大変すがすがしく魅力的であった。設計者にとっては頭を抱える短工期、ローコストという設計と条件が、この建築のデザインにとってはプラスに働いたと感じられた。また、工場からの廃材(円形のガラスカレット)を、サインや光庭の仕上げにさりげなく使用している点や、ガラス窯から取り出された耐火レンガを再生しオブジェとして蘇らせていることもこの施設の性格を的確に表現し、魅力を増す要因となっている。

(ゲスト選考委員 宮崎 浩 建築家)

■ アルテミス宇都宮クリニック



■ 東京松屋UNITY

「江戸からかみ」の伝統を「伝える」という手段を「若手デザイナー」に託した、江戸時代から続く和紙・唐紙の老舗の英断にまず軍配があがった。低層階に「見る、知る」空間、上層部に日常生活で和紙を「体験する」住居空間をつくり、和紙の持つ多様な可能性を身近に感じさせ、その技法の伝承の大切さをひろく一般に理解させるというところみはユニークである。インターフェースとしての、空中庭園と光と風の道のつなぎ空間により、自然との一体化を計った作者の意図は、日本の伝統建築のあり方の神髄をとらえて日本の都市空間に建つ建築の方向性を追求している。

和紙の持つ型の新しさ、色の鮮やかさ、紙とは思えぬ豪華さは日本の伝統色から選ばれた、主張しない灰白の壁により引き立てられている。

街並との関係性の重視も評価されたものの、建築的塾度がより希求される面も拭えず、将来に期待する思いをこめて奨励賞と決定された。

(選考委員 上山 良子 ランドスケープアーキテクト)



宇都宮市郊外で開発が進む商業集積エリアの中に建てられた産婦人科の診療所である。巨大なコンビニエンスストアなどが雑然と広がる街の中であって、静かな胎内空間を思わせる楕円形の広場を内包した個室19床の小規模医院ではあるが、この建築は都市の中で壁のもつ意味を深く考えさせる。黒いコンクリート壁で外部との断絶を計りながらも道路側の斜面に植栽を施し周辺環境への配慮も計られ、囲われた広場には六本のやまぼうしの木が象徴的に立つ、その庭に面して病院の諸施設、そして一般に開放されるプール、フィットネス、喫茶室が円形状に配置され、外界から守られた安らぎの空間を創り出している。

出産難民など社会問題視されている昨今、既に地域に根ざした産科医療施設を展開している理事長の、高い見識と、設計者の熱意との協同で実現した建物であり、医療の在り方とともに都市への優れた提案として、街並みの研究家 芦原義信先生の賞として相応しい業績と思われる。

(選考委員 村井 修 写真家)

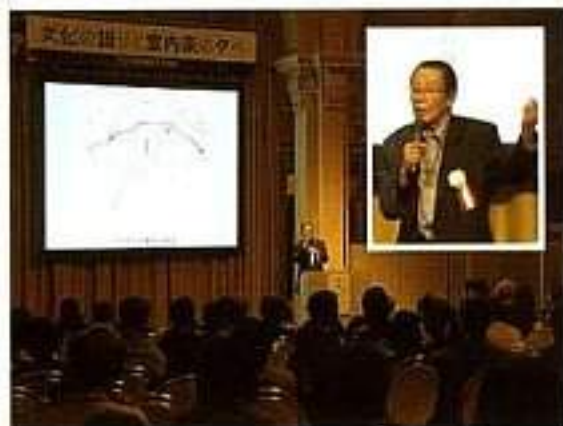
aacaかんさい発足2周年記念事業  
「文化の語りと室内楽の夕べ」

平成19年11月8日(木)にaacaかんさいの発足2周年を記念して、「文化の語りと室内楽の夕べ」が開催されました。

第一部 シンポジウム「景観づくりの作法」  
(コーディネータ：野村充氏)

第二部 文化講演「文化は人間だけのものか」  
(講演：日高敏隆氏)

最後の室内楽コンサートまで、会場の大阪市中央公会堂(中ノ島公会堂)は熱い空気に包まれました。



会員展 AACAA+7

現代の生活空間に不可欠な「アート」。  
そのアートと真摯に向き合い、常に積極的に空間演出を試みている。  
aacaの会員を中心とした7人による建築会館での展覧会です。

AACA  
+7 exhibition

■日 時：平成19年12月3日(月)～15日(土)

■会 場：建築会館一階ギャラリー及び中庭



井上 剛



岡村光哲

服部睦美



神代良明

渡邊早苗



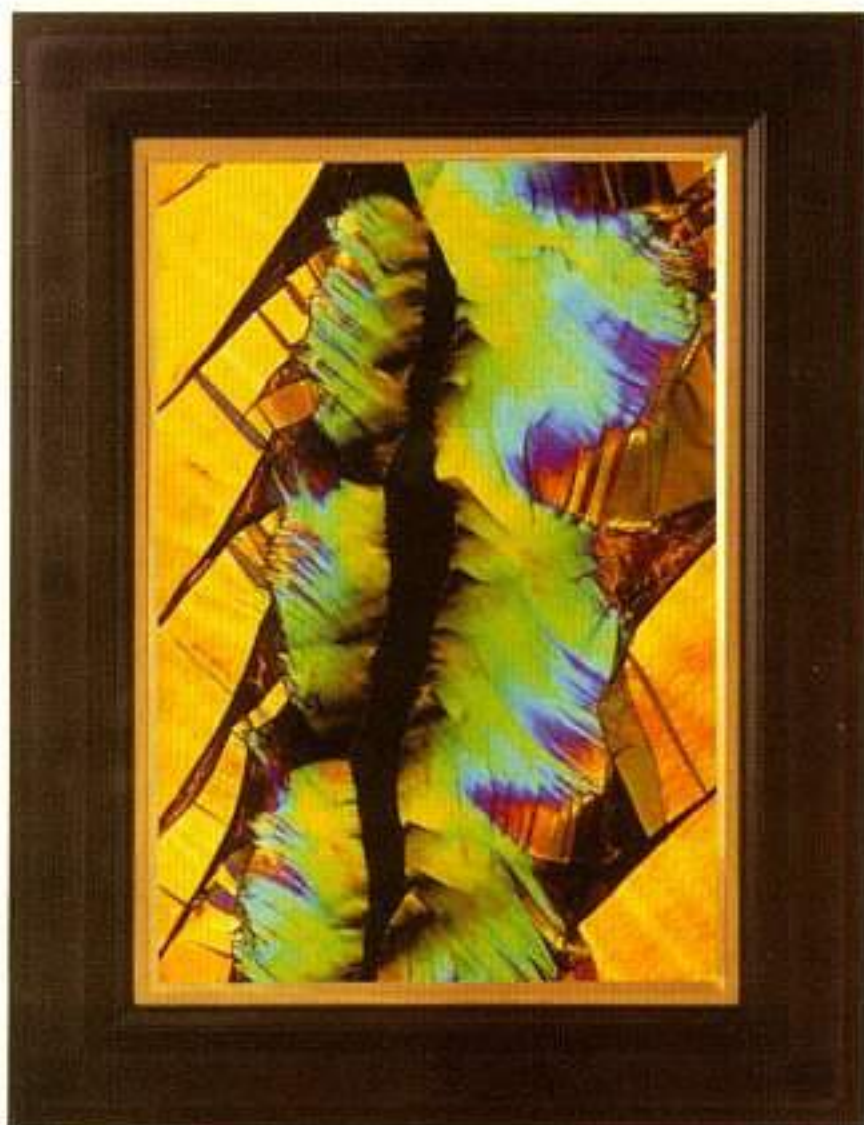
高濱英俊

庄 漫



土屋寿満 会員

第11回 エイズチャリティー美術展 作品出展



「光響」

第4回 AACA賞受賞者で関西にて活躍の土屋壽満会員が 東京新国立美術館にて開催された 表記展覧会に プリリアン・イマージュアートの作品を出展されました。プリリアン・イマージュアートとは 土屋会員が独自に技法を開発した「光の絵画」です。

光が千変万化する美しい形が現出します。

「絵画はなぜ絵具、絵筆で描かねばならないのか。太陽の光が天空に虹を描くように、光で絵を描きたい。」という願いから、独自の技法を開発し、「光の絵画」が誕生しました。

この「光から取り出した色彩で絵画を描く」プリリアン・イマージュアートは、ミロやピカソを育てたパリの伝統的な美術展「サロン・ド・メ」に招待出品され、「絵画の革命」21世紀の傑作と高く評価されました。

土屋壽満

第4回 AACA賞は大阪府門真市南部市民センター 森林浴体験室「森遊回廊」が受賞された作品です。



協会設立20周年記念 会員展

2008年 卯月展

雨山智子 伊藤琴恵 内田滋子 片岡雅子 佐藤静子 鮫島貴子  
中村弘子 野口真理 文月恵津子 山崎輝子 渡邊たまえ

建築会館1階展示室・イベント広場

2008年4月14日(月)～20日(日)

10:00～17:00 (最終日のみ15:00迄)

オープニングパーティー 4月14日(月) 18:00～20:00

19:00～ フェスティバルランチ ミニコンサート

aaca設立20周年記念事業

aaca  
卯月展

2008.4.14～4.20

今里 隆 会員

今里 隆 建築作品写真展

日本、そしてその美しさ

*Japan, and so beautiful*

杉山 隆建築設計事務所

千代田区永田町 2-17-5

ローレル永田町 417

TEL 03-3560-3021

吉井画廊

中央区銀座 8-2-8 03-3504-1839

2008年4月21日(月)～30日(水)

午前10時より午後7時まで (日曜・祝日を除く)

## 2008年 年頭所感

会長 中島昌信

新年のご挨拶を申し上げます

本年は協会の設立20周年を迎える名誉ある年であります。

多くの先輩の努力により築いてこられた協会が公益法人制度改革の新しい公益法人として更なる発展の為の移行の年であります。協会の設立の目的である芸術的環境の創造と保存を礎に広義の環境問題に取り組む年でもあります。昨年は各委員会の熱意ある活動と、委員会相互の連携が緊密化したことが印象的でした。

本年は会員の方々が積極的に委員会に参加され、楽しい雰囲気の中で当協会らしい事業を展開してまいりたいと思っております。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

会員の皆様のご健康と益々のご発展をお祈りし、新年のご挨拶といたします。

## 総務委員会からのお願い

総務委員長 宇津野和俊

会員の皆様へは 現在平成20年度より協会の会計年度に合わせた会費請求手続きを、お願いいたしております。協会の活動資金は皆様の会費に依るところが大であります。新公益法人へ移行致すべく手続きを変更いたしておりますが、変更に伴う会費収入は例年の二分の一となるため、未納分も併せてお願い申し上げている会員も多数おられます。この危機を乗り越えることがなによりも必要なため、なにとぞ趣旨をご斟酌いただき、期限内にお振込みいただきますよう、お願い申し上げます。

また、協会の理念にご理解いただける新入会員の確保も急務となっておりますので、ご勧誘いただき会員増強にも格別のご協力を重ねてお願い申し上げます。

## 新入会員 (2007年11月~2008年1月 入会・敬称略)

## 個人会員

山本康友	〒181-0013	三鷹市下連雀5-3-1-524	Tel.0422-71-6108
園浦眞佐子	〒276-0049	八千代市緑ヶ丘3-3-14	Tel.045-459-6562
本保基人	〒550-0003	大阪市西区京町堀1-15-7	Tel.06-6443-0021 (株)坂倉建築研究所大阪事務所
岡村光哲	〒359-1164	所沢市三ヶ島3-1414-16	Tel.04-2947-3091
楽 吉佐衛門	〒602-0923	京都市上京区油小路通中立売上ル	Tel.075-441-0621
神代良明	〒260-0853	千葉市中央区葛城2-12-31-B	Tel.043-224-3768

## 法人会員

株式会社クマヒラ	〒103-0023	代表取締役 熊平雅人 中央区日本橋本町1-10-3	窓口 営業推進課 調査役 浜本 収 墨田区両国3-22-6両国ビル Tel.03-5624-0677
----------	-----------	------------------------------	---

## 訂正(51号掲載分)

株式会社アーネスト計画工房	渋谷区富ヶ谷1-18-5 T1ビル
---------------	-------------------

## 会員投稿記事 募集中

発行

社団法人 日本建築美術工芸協会

〒108-0014

東京都港区芝5-26-20 建築会館6階

Tel 03-3457-7998

Fax 03-3457-1598

Url <http://www.aacajp.com>E-mail [info@aacajp.com](mailto:info@aacajp.com)

会員の皆様の

作品紹介、活動報告、  
展覧会、個展等のご案内  
企業の広告、出品展等のご案内  
を 会報に掲載いたします。  
詳しくは事務局にご相談ください。

編集

広報委員会

石田 真人 北村 孝昭 瀬川 秀之

竹生田 正 中村 弘子 野口 真理

長谷川 亨 本田 宣之 山崎 輝子

事務局

伊藤 富夫

会報について  
会報へのご意見 ご希望を  
お寄せください。(広報委員会)



制作協力

美和野印刷株式会社